

イスラエルによるパレスチナ占領地の教育、宗教、文化施設に対する攻撃は、戦争犯罪、絶滅という人道に対する罪に値する

2025/06/10

国連人権高等弁務官事務所

イスラエルはガザ地区の教育制度を全滅させ、同地区の宗教的・文化的遺跡の半分以上を破壊した。これは、パレスチナ人に対する広範かつ執拗な攻撃によるもので、イスラエルは戦争犯罪と絶滅という人道に対する罪を犯している。このように、国連・東エルサレムを含むパレスチナ被占領地及びイスラエルに関する独立調査委員会は本日、新たに出した[報告書](#)で指摘した。イスラエルの空爆、砲撃、焼き討ち、爆破によって、ガザにある学校や大学の建物の90%以上が破壊されていることも報告で明らかにされた。65万8,000人以上のガザの子どもたちが、20カ月間学校で授業を受けられずにいる。「特に憂慮すべきは、教育施設に対する攻撃が広範囲に及んでいることであり、ガザだけでなく、すべてのパレスチナの子どもたちに影響を及ぼしている」と独立調査委員会のメンバー、ナビ・ピレイは警鐘を鳴らした。また、「文化的・宗教的な場所への攻撃は、宗教的・文化的慣習、記憶、歴史といった無形の文化に深い影響を与えている」「ヨルダン川西岸地区の遺産の破壊、遺跡への立ち入り制限、歴史の抹殺はパレスチナ人の歴史的な絆を損ない、集団としてのアイデンティティを弱体化させる」とピレイは述べた。独立委員会はパレスチナ政府に対し、文化遺産の保護、保存、発展を確保し、遺物を保護するよう求めた。また、ガザの事実上の当局に対し、民間の器物を軍事目的に使わないよう要請した。

*同報告書は人権理事会第59会期に提出される。

【記事全文】

[Israeli attacks on educational, religious and cultural sites in the Occupied Palestinian Territory amount to war crimes and the crime against humanity of extermination, UN Commission says](#)